



2002  
No. 2

The Natural Science Publishers' Association of Japan

# 自然科学書協会会報

発行人・朝倉邦造  
編集・広報委員会  
発行・2002年4月15日

社団法人 自然科学書協会

〒101-0051 東京都千代田区神田神保町1-101 文化産業信用組合内 TEL03-3292-8281

## 著作・著作権特別委員会と 著作・著作権委員会報告

当2委員会は現在、「複写問題特別対策」について精力的に検討を重ねていますが、当面の具体的計画について、会員各社にご報告いたします。

「複写問題特別対策」の大きなテーマは、「違法なコピーをなくそう」と「コピーを止むを得ずとる場合の適正な処理の徹底」であります。これらの周知徹底には、コピーをとる側に、その知識と理解を深めてもらわねばなりません。当協会は出版界においてその運動に最も早くから、また熱心に取り組んできており、今回の対策も、その流れをより大きなものにしたいたいの考えに基づいております。

具体的な対策の一つとして、4月18日から21日までの4日間、東京ビックサイトで開催されます「東京国際ブックフェア (TIBF)」において、当協会の販売出展ブースの他に「違法コピーをなくそうキャンペーン」としてブースを設置し、パネル・パンフレット・チラシを作成し、来場者へのアピールを行うことになりました。

パネル (パネル例は、別掲参照) は4~5枚程度とし、キャッチコピーによる視覚に訴えるものと、実際にコピーをとる場合の正しい対応、複写複製問題に関する年表および当協会の取り組みなどを展開していきます。

パンフレットでは、パネルの内容をより詳細に解説し、コピーをとる側に「著作権法」の理解と注意を喚起しています。

チラシは、これらを簡潔にまとめています。パンフレットならびにチラシは、50,000枚程度を作成する予定ですが、来場者への配布はもちろん、質問にも対応できるように担当者を配置することになっています。作成したパネル、パンフレット、チラシは、今後の活動にも利用していく予定です。

このキャンペーンに要する予算は、約200万円ですが、「複写問題対策に係る特別会計」の一部770万円 (会員社からの分担金) を当てることにしています。

違法コピーをなくそう!

あっ! そのコピー大丈夫ですか?

NO COPY

(社)自然科学書協会  
TEL 03-3292-8281 FAX 03-3292-8102 URL <http://www.nspd.or.jp>

パネル例

この具体的な対策事業は、間近に迫った東京国際ブックフェアにおける事業ですが、著作・出版権特別委員会ならびに著作・出版権委員会では、これを今回のキャンペーンの第一歩として、以下のような今後の活動を検討しています。

- 専門誌・紙などに意見広告を掲載
  - キャンペーン用の版下を作成し、会員各社の理解を得て雑誌・図書目録などに掲載
  - 当協会ホームページへの掲載と各社のホームページにも掲載を依頼
  - 業界全体としての統一意見、統一行動の推進
  - 著作権に係る勉強会の開催
- などであり、これらを14年度の当2委員会の重点事業としていきます。

「複写問題対策に係る特別会計」は、毎年「日本複写権センター」から「出版者著作権協議会（出著協）」を経て、当協会に分配されるものですが、平成9年度～平成12年度（本年分配予定）に分配を受けたものについては、その処理・使用方法などについては、会員各社と検討をしていかなければなりません。

なお、いわゆる「白抜きR」などの問題についても、議論を重ねていますが、「日本複写権センター」・「学著協」・「新しい処理機構（JCLS）」における進行状況については、また機会を得て報告したいと考えています。

（著作・出版権委員会委員長 及川 清）

## ●● 報 告 ●●

### 書物への渴望感に満ちて

—「第10回台北国際図書展示会」視察旅行に参加して—

#### ●大規模な歓迎レセプション

台北国際図書展視察旅行の一行15名は、2月18日午前9時5分羽田発の中華航空107便で陽光のまぶしい台北空港に降りたった。

TIBE歓迎レセプションは、午後6時30分からグランドハイアットホテルで開かれた。日本年の設定もあり、日本出版界からの参加



TIBE 2002（2月19日～24日）、台北世界貿易センター



日本館開館式で挨拶する書協理事長

者は200名近い数にのぼったようです。

#### ●開会式に総統が挨拶

翌2月19日午前11時より、TIBE開会式がMeeting Pointで開かれた。陳水扁総統の挨拶があり、その後、日本年のブースを多数のSPと報道関係者とともに視察して廻っていた。午後0時より、日本館開館式がとり行われた。日本書籍出版協会・理事長 渡邊隆男氏のスピーチの中で「書国日本」のフレーズが印象に残った。

#### ●今回のブックフェアの概要

2月19日から24日の日程で「台北世界貿易センター」で開かれた今回のブックフェアの概要は、次の通りであった。

参加国47カ国、参加社数1,015社（前回は



日本館個別ブースの鳥瞰図



日本館集合ブース：自然科学書コーナー

886社)、出展ブース数は1,856ブース(前回は1,838ブース)、日本からの参加は184社、単独ブース=26社、集合ブース=25ブース、入場者数は22万人(前回は30万人)であった。

### ●台湾の出版市場性について

台湾の出版市場は次のようなことになる。市場規模=513億元(1999年統計:日本円で約2,050億円)、発行点数は書籍=30,871点、

### ◆ 関連団体の横顔 ◆

## 農業書協会

農業書協会は、昭和25年11月に発足した農業書販売懇話会が前身である。この懇話会が「日本農業書総目録」の創刊第1号を発行したのは、いまを去る50年前の昭和28年。知られていないが各種出ている「部門別総目録」



1994年6月 中国の農業出版社を招いて農業書センターの開幕式が開かれた。

右から トーハン広報室長 岡衡平氏、農業書協会会長 誠文堂新光社社長 小川茂男氏、農文協専務理事 坂本尚氏、中国農業科技出版代表団団長 中国農業科学院副院長 陳万金氏、中国農業科技出版社社長 王子聡氏、農業出版社社長 蔡盛林氏、中国農業科技出版社 副社長 庄思全氏。(役職は、いずれも1994年当時)

の嚆矢が「日本農業書総目録」なのである。

農業書販売懇話会は、昭和35年12月に懇話会のメンバーを中心に13社で農業書協会を設立し、「日本農業書総目録」の発行を継承した。

農業書協会は平成8年中国の農業出版社と共催で「中日農業図書交流会」を開き、平成10年には「日本農業書総目録」の中国版を発行している。また「日本農業書総目録」に掲載されている140社、5,800点の全点が東京・大手町にある農業書センター書店に陳列販売されている。(農文協 坂本 尚)



2000年10月 リニューアルオープンした農業書センター書店(東京・大手町・地下鉄丸の内線大手町すぐのJAビル地下1階)

雑誌＝約900誌、出版社数は約2,000社、取次会社数は約100社（実働は30社）。書店数は約2,000店（最近チェーン店化の傾向にあり）。図書館は563館、人口2,223万人に対しては少ない数字ではなかろう。経済人口（15～64歳）が66%と高いことは活況の源泉といえよう。インターネット普及率は20%を越えており、日本より高い。

書物への渴望感を身近かに感じさせる、元気をもらえる視察旅行であった。

（広報委員会副委員長 平田 直）

### 東京国際ブックフェアの開催

4月18日（木）から21日（日）までの4日間、「東京国際ブックフェア」が東京ビックサイトで開催されることは周知のことと存じます。同展開催までの当委員会の活動経過を報告しますと、全体委員会を2回（2001年10月3日、12月20日）、小委員会（運営・レイアウト・設営）を数回行い、展示の成功に向けて万全の準備を整えてきました。

今回の出展社は70社2,379冊です。目録展示は、自然科学書協会英文目録、理学書目録、工学書目録、医学書目録、生活・家政学書目録、日本農業書目録を準備し、1冊でも多くの方に持参して頂ければと願っています。また、会員社の目録は1社30部となっていますが、例年の経験から見て会期半ばで無くなると思われるので、ご来場の際にはぜひ追加持参して補充下さいますよう、お願い致します。

出展品は、3月20日の案内状に記した通り、4月9日（火）より12日（金）の間にコロナ社に届くよう手配して頂きました。御礼申し上げます。

ブックフェアが成功裡に終わるよう、会期中も委員会全員で頑張っておりますので、より多くの方々にご来場頂き、また多くの方々をお誘い頂き、協会のブースに足を運ばれますよう、心から願っています。

（販売・出展委員会委員長 牛来 辰巳）

### 【今後のスケジュール】

- ◆東京国際ブックフェア2002  
日時：2002年4月18日（木）～21日（日）  
場所：東京ビックサイト
- ◆第52期予算総会  
日時：2002年5月16日（木） 14：00～  
場所：出版クラブ
- ◆第51期定時総会  
日時：2002年7月18日（木） 17：00～  
場所：出版クラブ

### 【当会代表者変更】

- ◆株式会社地球社より、当会代表者の変更届があった。  
旧代表者 戸田 實  
新代表者 戸田 学

### 【住所変更】

- ◆株式会社井上書院  
〒113-0034 東京都文京区湯島2-17-15 齋藤ビル4階  
TEL、FAX変更なし
- ◆株式会社医薬ジャーナル  
〒541-0047 大阪市中央区淡路町3-1-5 淡路町ビル21  
8階  
TEL、FAX変更なし
- ◆株式会社化学同人  
〒600-8074 京都市下京区仏光寺通柳馬場西入ル  
TEL、FAX変更なし

### 【退会社】

- ◆株式会社理工学社

### 【協会事務局移転】

- 当協会事務局が、下記に移転しました。  
◆〒101-0051 東京都千代田区神田神保町1-101  
TEL、FAX変更なし

### 編集後記

◇「いやはや、嘆かわしい世の中になったものです。節操なんてあったもんじゃない。道徳なんて死語ですよ。これはある書店主の嘆きである。近頃の書店では、万引は日常茶飯事。老若男女を問わず、やりたい放題。聞くところによれば、薬屋で総売上げの4%、本屋で1%は万引にやられている現状を見ると、もともと薄利の本屋なんてやっちゃいられないということにもなる。ここらあたりで、万引防止のインフラづくりを出版界で考えていきたいものだ。 (M)

### 第51/52期広報委員

- <担当常務理事> 今井 康之（岩波書店）
- <委員長> 江面 竹彦（産業図書）
- <副委員長> 平田 直（中山書店）  
松嶋 徹（丸善）
- <委員> 井上 昭彦（朝倉書店）  
池田富士太（科学新聞社）  
新谷 滋記（工業調査会）  
相馬三喜男（南江堂）